

令和2年度
(2020年度)

事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)



学校法人
巨樹の会

目 次

I 学校法人の概要

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 基本理念、建学の精神、教育理念、沿革 | 1 ~ 2 |
| 2. 教育方針 | 3 |
| 3. 設置する学校・学科等 | 4 |
| 4. 学生数の状況 | 5 |
| 5. 役員及び評議員の概要 | 6 |
| 6. 国家試験合格状況 | 7 |

II 事業の概要

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 令和2年度事業の概要 | 8 ~ 9 |
| 2. 各学校の事業報告 | 10 ~ 25 |

I. 学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。今では助産師教育を含む7つの専修学校で育成を行う学院に発展し、そういった創設者の思いが『建学の精神』の根底にあります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

—— 教育にかける情熱 ——

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池真澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛と自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育3年間、卒業してからの臨床教育3年間という「6年間一貫教育」をもって、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校7校の卒業生は約14,700人となり、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 2年10月	令和健康科学大学(仮称)設置認可申請書提出

2. 教育方針

令和2年度 学校法人巨樹の会 教育方針

1. 根拠ある実践力を身につけた医療従事者の養成を行う

- 1) 6年間一貫教育*1の徹底
 - (1) 実践能力強化に向けての教育体制作り
実践力強化のためのシミュレーション教育への取組み
PBL、OSEC等の主体的で対話的な深い学びができる教育方法の工夫
 - (2) 一人ひとりを大切にした教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
学生満足度の向上
 - (3) 多職種連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力を育成する

- 1) 専任教員への養成
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
専任教員(NS)の継続研修参加促進
- 2) 学内の研修制度の充実
中央研修への参加促進
学会、研修会参加の促進
- 3) 主体的・対話的な授業の実現のためのICT機器の活用ができるための研修の実施
- 4) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

3. (仮称) 令和健康科学大学の開設準備を行い、設置実現を目指す

大学準備室として10月末の申請を行い、翌年8月認可を目指す

4. 福岡看護専門学校、福岡和白リハビリテーション学院2校の閉校に伴う申請と同時に、学生教育の支援のために教職員対応の充実を図る

専門学校の在校生の教育を教職員全員で支援する
閉校までの準備を滞りなく行う

3. 設置する学校・学科等

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数	備 考
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	50名	150名	
		看護学科	2年課程 夜間定時制	3年	50名	150名	平成4年開設
		看護学科	2年課程 通信制	2年	250名	500名	平成16年開設
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名	平成18年40名増
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名	
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名	
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名	平成18年40名増
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名	平成22年開設
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名	平成18年40名増
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名	
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名	
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名	
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名	
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名	
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名	
		助産学科	1年課程 全日制	1年	25名	25名	平成23年開設
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名	
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名	

助産院

施 設 名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営

4. 学生数の状況

(令和2年5月1日現在)

福岡看護専門学校

(単位:人)

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
看護学科第1科 (3年課程 全日制)	50	135	51	150	152
看護学科第2科 (2年課程 夜間定時制)	50	79	50	150	146
看護学科第3科 (2年課程 通信制)	250	211	204	500	426
計	350	425	305	800	724

小倉リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	93	85	240	213
理学療法学科(夜間)	40	24	20	160	76
作業療法学科(昼間)	40	35	35	120	94
計	160	152	140	520	383

下関看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
理学療法学科	80	72	67	240	169
看護学科 (3年課程 全日制)	40	49	37	120	110
計	120	121	104	360	279

八千代リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	157	90	240	251
理学療法学科(夜間)	40	84	33	160	119
作業療法学科(昼間)	40	61	40	120	120
計	160	302	163	520	490

福岡和白リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	94	92	240	251
理学療法学科(夜間)	40	19	14	160	50
作業療法学科(昼間)	40	46	44	120	130
計	160	159	150	520	431

福岡水巻看護助産学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	80	132	80	240	230
助産学科	25	101	25	25	25
計	105	233	105	265	255

武雄看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	40	100	41	120	126
理学療法学科	40	41	39	120	124
計	80	141	80	240	250

法人全体数	入学定員	志願者数	入学者数	収容定員	学生数
	1,135	1,533	1,047	3,225	2,812

5. 役員及び評議員の概要

(令和3年3月31日現在)

①役員・評議員の数

	選任条項別定数実数					
	選任基準			定数	実数	
理事 (定数7～11)	7-1-1	学校長及び学院長	理事会選任	1～2	2	9
	7-1-2	評議員	評議員会選任	4～5	4	
	7-1-3	学識経験者	理事会選任	2～4	3	
監事	-	-	理事長選任	2	2	2
評議員 (定数16～23)	24-1-1	法人職員	理事会選任	4～6	4	17
	24-1-2	卒業生	評議員会選任	3～5	4	
	24-1-3	学識経験者	理事会選任	9～12	9	

②役員名簿

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	選任基準
理事長	藤井 茂	H31.3.2	非常勤	7-1-3
理事	宮崎 澄雄	H15.12.3	常勤	7-1-1
理事	松原 孝俊	H28.6.1	常勤	7-1-1
理事	鶴崎 直邦	H8.8.1	非常勤	7-1-2
理事	西村 泰治	R2.10.1	非常勤	7-1-2
理事	中野 盛夫	H23.3.28	非常勤	7-1-2
理事	田川 秀明	H31.4.2	常勤	7-1-2
理事	蒲池 眞澄	H10.4.1	非常勤	7-1-3
理事	山本 智子	R2.6.27	常勤	7-1-3
監事	中尾 俊彦	H24.4.1	非常勤	-
監事	本岡 大祐	H30.6.1	非常勤	-

7. 国家試験合格状況

<第110回 看護師 全国平均合格率 90.4% 第103回助産師 全国平均合格率 99.6%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	課程別 全国合格率(%)
福岡看護専門学校	看護学科第1科 (3年課程 全日制)	47	44	93.6%	96.0%
	看護学科第2科 (2年課程 定時制)	45	45	100%	95.5%
	看護学科第3科 (2年課程 通信制)	204	163	79.9%	81.4%
福岡水巻看護助産学校	看護学科 (3年課程 全日制)	66	66	100%	96.0%
	助産学科	24	24	100%	99.7%
下関看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	31	29	93.5%	96.0%
武雄看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	40	40	100%	96.0%

<第56回 理学・作業療法士 全国平均合格率 PT 79.0% OT 81.3%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	課程別 全国合格率(%)
小倉リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	77	73	94.8%	86.4%
	作業療法学科(昼間)	26	25	96.2%	88.8%
下関看護リハビリテーション学校	理学療法学科	37	33	89.2%	86.4%
八千代リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	98	94	95.9%	86.4%
	作業療法学科(昼間)	39	37	94.9%	88.8%
福岡和白リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	78	63	80.8%	86.4%
	作業療法学科(昼間)	44	43	97.7%	88.8%
武雄看護リハビリテーション学校	理学療法学科	40	39	97.5%	86.4%

Ⅱ. 事業の概要

1. 令和2年度事業の概要

学校法人巨樹の会の令和2年度における事業の総括概要は、以下の通りである。

(1) 令和健康科学大学（仮称）設置申請書の提出

学校法人巨樹の会は、カマチグループの一員として平成2年より看護師、平成16年から理学療法士・作業療法士の育成を行い、合計6,949名の看護師、4,346名の理学療法士、1,544名の作業療法士の育成を行ってきた。そのような中、人生100年時代の到来、健康寿命の延伸、地域包括ケアシステムの構築、医療の多様化・複雑化といった社会構造の変化に伴い、健康の重要性は年々向上し、医療専門職者に求められる役割も拡大してきた。特に医療が多様化・複雑化する中では対象者を全人的に捉え、多くの専門職種と連携・協働しながら最適な医療を提供する力が求められるようになった。以上の背景により、学校法人巨樹の会は母体となる専門学校の教育的資源を継承し、「幅広い教養と思考力、探究心、倫理観を統合した実践力を備えた医療専門職」の養成を行い、持続可能な健康社会の実現を目指し、令和健康科学大学（仮称）の設置計画を策定し令和2年10月23日に設置申請書を文部科学省に提出した。

(2) 学校法人寄附行為変更認可申請書の提出

令和健康科学大学（仮称）設置に伴い、令和2年10月15日に学校法人寄附行為組織変更認可申請に際して福岡県知事から進達を受け、文部科学省に提出した。現在、大学法人への移行に伴い、学校法人や新設する令和健康科学大学（仮称）の業務を適正に執行するためのガバナンスやコンプライアンスに関する認識を念頭に置き、様々な問題を円滑かつ適切に対応できる法人内の仕組みや体制等の整備を進めている。

(3) カマチグループ企業型確定拠出年金制度の導入

カマチグループであるスケールメリットを活かし、令和2年7月より教職員の老後の生活資金を計画的・効率的に準備するための制度として、確定拠出年金選択金規程を制定し、選択制確定拠出年金制度を導入した。

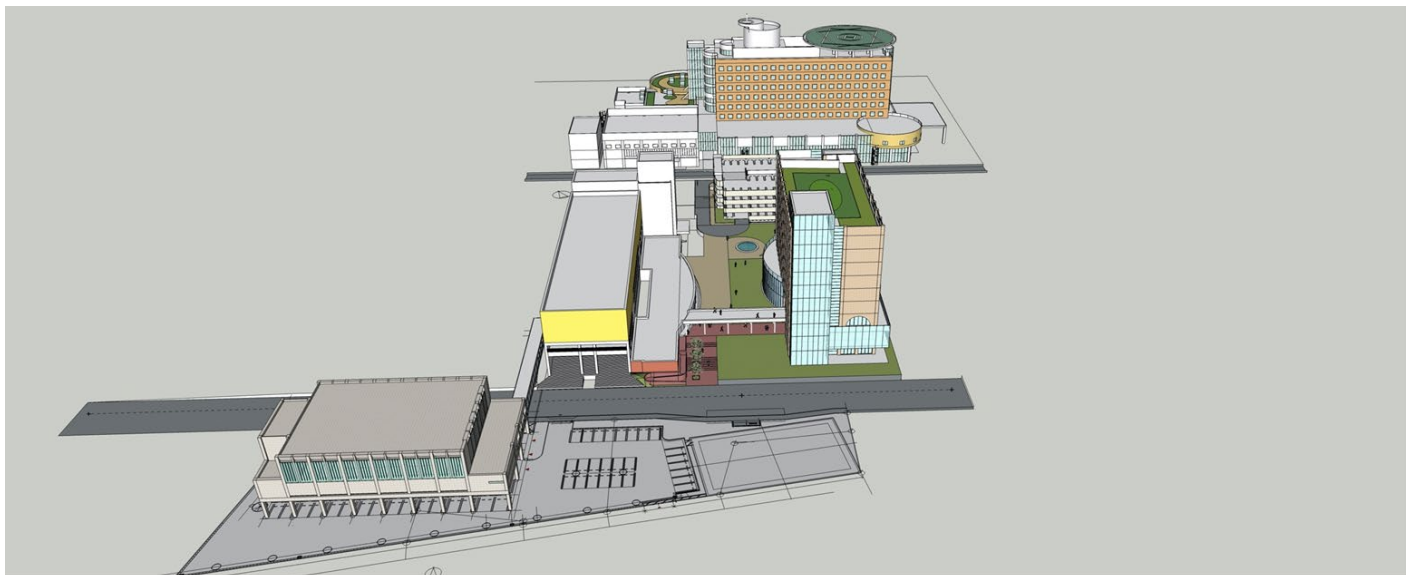
(4) ハラスメントに関するアンケート調査の継続実施

様々なハラスメントの予防対策強化を講じるとともに、教職員の能力を高め、多様性、人格、個人を尊重する働き方の実現、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境整備に取り組んでおり、今年度もハラスメントの予防・解決に向けた周知・徹底のため、さらには啓蒙活動の一環としてハラスメントに関するアンケート調査の実施を行った。

(5) 令和健康科学大学（仮称）校舎及び講堂兼体育館新築工事着工

令和4年4月開学に向けて設置認可申請中の令和健康科学大学（仮称）の校舎及び講堂兼体育館並びに運動場の工事を令和2年10月より着工した。

令和3年11月竣工予定である。



2. 各学校の事業報告

法人の事業方針に基づいて、各校が策定した事業計画への主な取り組みは以下のとおりである。

福岡看護専門学校

学習者一人ひとりに目を向けた教育の推進
～豊かな人間性、責任感のある看護専門職の育成を目指して～

(1) 実践力の向上

教育機材の充実を図り、社会に貢献できる実践能力を身につけた有能な人材の教育を行う。

①シミュレーター（シナリオ・フィジコ）の活用、教育方法の工夫

専門分野、統合分野においてシミュレーターを活用した演習や技術チェックを実施している。コロナ禍の代替実習においてもシミュレーターを活用することにより、臨地に近い形で観察力・判断力や実践を学び合うことができた。

②技術教育の強化とあり方の検討

専門分野 I の演習において強化した。マトリックスを作成して基礎看護学の講義で演習を実施した。実習では技術経験録を基に受け持ち患者以外の看護技術も見学・実施できるように指導した。就職後すぐに必要となる項目について卒業前に技術演習を実施し学生の満足度も高かった。

③教育力向上に向けた教員研修の積極的な受講

コロナ禍で研修参加ができていない教員が多かったが、一部の教員はオンライン研修でコロナ禍による代替実習に関する研修に参加し、研修での学びを自科の代替実習に活かすことができた。

(2) 学生満足度向上の実現

①より良い環境で教育を行い、学生満足度の向上を実現する。

Wi-Fi 接続時に PC 動作が悪くなる等の問題改善のため、アクセスポイントを設置。コロナ禍であったが、対面授業からすぐに、オンライン授業への切り替えを行い、授業内容は今までと同様遂行できた。

毎年卒業時満足度調査を実施しており、前年度満足度が低かった項目はなかったが、学習スペースが少ないというコメントがあり、学習スペースとして図書室の利用を勧めた。

新型コロナウイルス感染症予防として、できるだけ広い教室の使用や換気、消毒の徹底に努め、不安に思う学生に対しては気持ちを聞いた上で、学校の対応について説明し不安の軽減に努めた。学内で感染者は出ていない。

②自ら学び探求していく教育方法を取り入れていく。

一方的な講義のみではなく、感染予防に努めながらグループワーク等を取り入れた。考えたり調べたりすることで自己学習能力につなげた。実習オリエンテーションは学生がプレゼンを実施した。他学生に説明するために実習要項を読み込み、受け身にならずに取り組むことができた。

臨地実習の事前学習は実習オリエンテーションやルーブリックを確認して学生自身で必要な学習を行うようにしている。

各学年、目標管理シートを用いて計画立案と評価を実施し教員が確認している。

卒業・国家試験へ向けての学生自身の目標が明確になるように、カリキュラム・実習・国家試験のオリエンテーションを定期的に行った。授業では、学生の今までの経験をふまえて考える事やグループワークで様々な意見を共有できるようにした。

(3) ICTを活用した教育の推進

①タブレットを活用した授業・実習指導の実施

コロナ禍では、オンラインを使用して代替実習中の個別指導やグループカンファレンスを実施した。質問に対してもLINEやGoogleのクラスルームを使用し、リアルタイムで問題解決を図ることにつながった。

iPadで演習風景を録画して演習後のリフレクションに使用した。動画で観ることで学生の振り返りには効果的であった。しかし音声があまり聞こえないため課題も残る。

②ICTに関する教職員への研修の実施

中央研修でICT研修を計画していたがコロナ禍で中止となったため、次年度計画している。オンライン授業の導入により、改めて研修という形ではできていないが、操作方法を学び教職員全員のスキル向上につながった。

③効果的なWi-Fiの活用

コロナ禍において、オンラインを使用して代替実習中の個別指導やグループカンファレンスを実施する際にWi-Fiを使用した。Wi-Fiのアクセスポイントが追加され、Wi-Fi環境が安定した。

(4) 各学年の履修率・卒業率向上のための取り組みの実施

①国家試験合格率100%実現に向けての各学年の取り組み強化。

1, 2年次から国家試験対策を計画的に行っている。3年次はクラス、グループ、個人に合わせ国家試験対策を実施。成績不振者に対しては長期休業中に専門領域別にセミナーを実施し、個別に学習会を実施した。

しかしコロナ禍で自宅学習とした時期もあり、十分な対応が出来なかった学生もいた。

第2科27回生45名は全員看護師国家試験に合格した。

②主体的学習の支援、学習方法の確立、効果的なグループ活動

担任を中心として当該学年の履修はもちろんのこと、未履修科目の履修ができるよう学習支援を実施し、1年次より学習計画の指導を実施した。臨地実習の期間中は学内日に実習活動をグループで実施した。クラス全体で共有する内容もあるが、グループで学びの共有を行い、課題を明確にして取り組むよう支援している。

3年生は学生の国家試験対策委員を立てて主体的に行動できるよう関わった。委員の協力が得られ委員を中心に国家試験対策に取り組むことができた。また、国家試験の学習は成績が同レベルのグループで行い、学習進度に差が出ず学習効果があった。

③臨地実習での学びの実感とタイムリーな指導

学生に学ばせたい技術については、実習指導者会議で依頼し、実習指導者より可能な限り、技術経験できるよう調整。学生1グループに1教員、実習指導者が指導に当たり個々へ細やかな指導を実施することができ学生からの評価も高い。患者へのケアを実施した後は教員もしくは実習指導者が学生とともにリフレクションを実施し、患者への効果や学生の課題を明確にしている。

④実習指導担当教員の充実

主な実習先である福岡和白病院と1回/月、他施設においても計画的に実習指導者会議を開催し、目標達成状況及び指導方法の確認など行い、学生の状況に合わせた指導を実施している。時期により実習領域が多い時もあり、教員の負担が重なったことは今後の課題とする。

⑤カウンセリングの効果的な活用、学生個々とのかかわり

カウンセラーの活用は多く、学生の利用は1回平均して8名である。教員が学生との関りについてもカウンセラーにアドバイスをもらって、学生支援に努めている。学習で気になる状況については保護者に連絡をとり指導に役立てている。面接記録は必ず残し、教員間で共有している。年度初めに各学年の担任が個人面談を実施して状況の把握を行っている。その他も気になる学生や相談があれば個別でかかわり、カウンセリングが必要な学生にはカウンセリングを勧め、カウンセリングを受けている学生もいる。

(5) 社会貢献活動及び地域連携の充実

①福岡和白病院との共同活動（健康フェスタ・職場体験）

新型コロナウイルス感染症の影響で、健康フェスタの未実施となった。

②地域清掃活動

個人的に活動している学生が2名いた。大学校舎等建築のため、学校周囲の清掃は実施できていない。

③地域や近隣高校へのアピール（学校・職業紹介、入試面接指導）

副学校長が福岡県内の高校へ訪問し、学校紹介及び看護師の職業紹介を行った。進路ガイダンスに参加し、医療系の進学を検討している学生に対し、面接指導を実施した。

(6) 効果的な広報活動の展開

①広報戦略の立案および広報活動の実施

各科広報委員が立案した広報計画を広報委員会で報告し実施。第1科はオンラインを含めたOC、学校説明会を計3回実施した他、在校生の母校へのメッセージカード送付、ブログの更新を通じて学生や学校の様子を発信した。第2科、第3科に関しては、学生募集を中止していることもあり、学生の学校生活の状況を行事ごとに担当を決めて、ブログの更新を行い、情報提供を実施した。

②ホームページの運営上の課題や要望を顧みて、効率向上を目指す改善の実施

保守管理業者と連携し、課題や要望の改善に務めた。

(7) 経費削減

①業務分担を再考し、ワークライフバランスを改善

共有フォルダを活用することで意見の集約の実施及び前年度の運営実績を確認して今年度の活動に活かすことで、メール配信回数が減少。

教員の役割は年度初めに伝え、各学年は複数担当としている。教員によって業務量が多くなる時期があるが、必要時依頼をして協力できた。定時帰宅の推奨を実施している。年6日以上の有給休暇を取得できている。

②役割別マニュアルの見直し

看護学校4校の交流会で役割別マニュアルを作成しており、教員間で見直しを行い活用している。

③実習時間の検討・調整

実習場所によって随時学生の学びに効果がある実習時間へ調整している。令和元年より福岡和白病院では臨地での実習開始時間を30分遅らせている。このことより学内で教員の指導が十分行えるようになり、学生も実習目標や実施計画を明確にして実習に臨むことができている。

基礎看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習は実習時間内に実践活動外学習の時間を設けており、対象理解と看護に関する学習を深め、受け持ち患者への看護実践に活かしている。

(8) 職員力の向上

①個人目標の設定と評価

キャリア別に個人目標を設定し中間評価を行い管理者による年度末面接を実施している。次年度に向けての目標・活動・将来展望について確認し自身の目標を意識して業務に取り組むことができた。

②各科の特徴に合わせた教育目標の設定と評価

管理目標について中間、年度末評価を実施している。具体的な取り組みとその成果をできるだけ客観的に表現し、次年度の課題を明確にしている。2科は就業しながら学ぶ学生達であり、仕事と学校の生活の中で、自己学習の時間の捻出が困難となる学生が多く、体調を崩す学生も見られる。学習面と体調管理においては必要な学生には個々に関わり科目履修ができるよう支援している。

③コミュニケーション能力とリサーチ力を駆使した組織づくり

経験からくるアドバイスを互いに行い、助け合う組織となるようコミュニケーションを図りながら、組織で動くことを意識できた。

学校内の委員会は各科の担当者を決めており、学科を跨いだ連携も図れている。また各委員会では計画立案と実施を行い、会議で報告を行っている。

小倉リハビリテーション学院

魅力ある教育内容の充実と信頼される学校作り

(1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

①学生支援体制、生活支援体制の充実

教職員による朝の挨拶運動を継続し、基本的な生活習慣を身につけるように指導。また、朝と放課後に学習活動を行うことで、学生の理解度を定期的に確認できるようになった。また、学内のカウンセリング体制をさらにアピールし、カウンセラーの来校を増やすことでカウンセリングを受けやすい環境や体制を確立した。

②進路支援体制の充実

国家試験合格率の向上のため、基礎分野の反復練習および思考力・判断力・コミュニケーション能力向上のためにセミナー等を実施。また、就職活動に向けて、施設見学の際の要点、履歴書の書き方、模擬面接等、随時指導を行なった。結果、国家試験合格率、就職率の向上に繋がった。

(2) 学生満足度向上に向けた取り組み

①4F 学生サロン 床張り替え、テーブル・椅子入替え

白のタイル地で汚れや傷が目立っていた床材から、木目調の床に変更した。テーブルや椅子は原色で統一感のないものであったため、床に合わせて木目のものに変更した。落ち着いた空間となり、学生がくつろぎやすく、また、オープンキャンパスにおいても好評であった。

②トイレにサンタリーボックス、エアーフレッシュナー（芳香消臭剤）の設置

ここ数年、トイレにウォッシュレットの設置や、ハンドドライヤーの設置を行い、トイレ環境の改善を図ってきたが、ゴミや汚物の放置などが見受けられていた。トイレの清潔感やサンタリーボックスの印象により施設の評価を左右したことがあるといった声もあり、サンタリーボックスやエアーフレッシュナーの設置を行った。これにより、トイレ内の匂いが気にならなくなり、快適な空気環境を保てるようになった。また、ゴミ等の放置も見られなくなった。

③校内レイアウト変更（教職員室・図書室入替）

閉鎖的だった教職員室と開放的だった図書室を入れ替えることにより、学生が教職員室へ立ち寄りやすくなり、教職員室から学生の様子を見通せるようになった。また、図書室では、学生が集中して自主学習等に臨めるようになった。

④階段の手すり改修

経年劣化により塗装の剥がれ、錆が目立っていたため、ステンレス製の手すりに交換した。これにより、清潔に保ちやすく、長期に状態を維持出来るようになった。

⑤プロジェクター及びスクリーンの購入

劣化により不具合が起こったり、見づらかったりしていた3台の買い替えを行なった。

⑥指定規則変更に伴う物品、その他教育機器の購入

授業に必要な物品を揃え、機器の台数を充実させることにより、効率的に授業を進めることができるようになった。

(3) ICT環境の運用

新入生へ教育用タブレットを提供。授業や自己学習で教材ソフトやアプリを利用することで、より理解を深めやすくなった。

(4) 業務効率化の促進

①教員室椅子入替え

サイズが大きく重量もあり、老朽化のため汚れや破損が目立っていたため、サイズもスリムで軽量なものへ変更した。教務室のスペースに余裕ができ、作業時のストレスも軽減した。

②教職員室パソコン入替え

Windows 7 のサポート終了に伴い、13 台のパソコンの入替えを行った。

下関看護リハビリテーション学校

地域に密着した専門学校を目指して
～学生・保護者、地域に信頼される学校づくり～

(1) 教育設備・機材の充実と、より実践的な教育を行う

①学会研修会参加の促進

コロナ禍で学会研修会が中止となる中、ズームでの参加ができる研修については、積極的に参加した。

(看護学科)

- ・日本看護学校協議会及び看護協会主催の会議、研修の参加
- ・医学書院、メディカ出版、メディックメディアの研修参加
- ・学研、東京アカデミーの国試対策

(理学療法学科)

- ・日本離床学会教育講座（血液データ判読講座）へ参加
- ・第9回日本理学療法教育学会学術大会へ参加
- ・多職種のための臨床研究てらこ屋へ参加
- ・第26回心臓リハビリテーション学会学術集会オンライン学術集会へ参加
- ・第55回日本理学療法学術研修大会 2020in おおいたへの参加
- ・認定必須研修会(学校教育)【eラーニング】への参加

②シミュレーションを用いた実践的な教育（ICT教育の推進）

(学科共通)

- ・ハイブリッドシミュレーター「シナリオ」は学内実習及びIPEで活用した。両学科でいつでも活用できるように、令和3年度は1台増やし2台用いて実践に役立てる。

(看護学科)

- ・iPadでeテキスト、ロイロノートアプリを用いて講義を実践した。
- ・eナーストレーナーの試行期間を活用して、学内でのシミュレーションを実施した。効果があったため、令和3年度の導入を決定した。

(理学療法学科)

- ・iPadでロイロノートアプリを用いて講義を実践した。また、実技指導やOSCEにiPadでの動画撮影を用いた。

③IPE の推進（今年度の評価←継続 1年次より計画する）

- ・1年次から計画を立てて両学科で委員を決め、実践した
3年生には下関リハビリテーション病院から職員の方たちにカンファレンスの現場を見せていただき、学びを実際に役立てようとする姿勢が見られた。

④退学抑止のため、一年次早期からの学習支援の実施

（看護学科）

R元年度＝10名 → R2年度＝6名 へ減じている

- ・1年次より学生個人の学力をみて、状況を教員間で共有した。
- ・自ら学ぶ姿勢を育てるため、講義はもちろん学校行事や委員会活動など考えさせ実践するように指導した。
- ・成績が出たときに低迷者には面談及び保護者との面談を実施した。
- ・国家試験合格率向上のため、コロナ禍で学内実習になったので、全教員で学習支援した。

（理学療法学科）

R元年度＝9名 → R2年度＝8名 へ減じている

- ・担任による定期的な面談に加え、気になる学生に対しての早期面談の実施、カウンセリングの推奨、学科会議での学生の情報共有、必要に応じて保護者への電話連絡や面談の実施を行った。
- ・各学年で低学力者の早期把握と学習支援を実施した。
※支援はするものの、なかなか成績を伸びない学生もみられ、真の支援とは何かと考えさせられ、自ら学ぶ力を育てなければならないことを痛感した。
そこで、令和3年度の学科のスローガンとして “「教える」から「学ぶ」への変革” を掲げることとした。

⑤学習発表会の実施（看護学科）

- ・1年生に看護技術の実施を戴帽式の時に保護者に対して計画していたが、コロナ禍のために中止した。3月に学内で学んだことの発表会を実施した。

⑥教員間授業評価・指導の促進

（看護学科）

- ・授業評価しやすいようにPRコードやロイロノートを活用してすぐに集計できるようにシステムを整えた。新カリキュラムの検討の時に科目の評価を実施した。内容を見直し、必要科目を出している。

（理学療法学科）

- ・学生からの評価、教員間評価ともに、グループ校で統一されたフォームでGoogle formを利用して実施した。
- ・教員間の授業評価に向けての被評価者事前準備や結果の有効活用など、まだまだ改善すべきことはある。

⑦グループ校の同科目担当教員間の情報交換

（看護学科）

- ・コロナ禍で実施できていない。

(理学療法学科)

- ・必要に応じて、各個人では行っているレベルである。シラバス作成に関しては、委員会の指示のもと情報交換が行われている。

(2) 学生満足度向上

- ①遮熱対策で階段にスクリーンを取り付けて、直射日光が遮断でき階段を利用する学生も快適になった。
- ②両学科ともに新カリキュラムに向けて全備品の確認を実施した。指定規則に不足するものはなく、消耗品の交換や破損品の修理・交換を行った。看護学科の教材として令和3年度に「シナリオ」を1台増設する予算計上を行った。
- ③ICT教育の推進で、教員数分のiPadを購入した。新型コロナウイルス感染対策の影響によりリモート会議が増加したため学内のどこでも行えるよう2階にWi-Fiのアクセスポイントの追加を行った。
- ④個人学習ブースを図書室に設置し、新型コロナウイルス感染症対策でソーシャルディスタンスを確保し自習スペースとして利用できた。
- ⑤学校内を職員全員で点検を行い、修繕箇所は年度内に修繕した。
学生寮については、若葉寮では入口のカギの交換を行い、ラポールについてはトイレの改修やエアコン取替、掃除、除草、など必要時修理等実施した。

八千代リハビリテーション学院

～環境整備・職業実践教育を推進～

(1) 教育設備・機材の充実を図り、より良い環境で教育を行い、学生満足度の向上を図る。

- ①教育上必要な機械器具の購入
 - ・治療用枕を既存の布クッション枕から買換え、衛生面及び管理面が改善された。
 - ・新入生研修など交流の場での使用目的で「ボッチャ」を購入した。ルールを学び対外的なボランティア等でも今後役立つと思われる。
 - ・指定規則改正に伴う物理療法機器（超短波機器、電気刺激装置）の追加購入を行った。
- ②管理備品の買換え購入
 - ・経年劣化による破損箇所があった学生サロンの椅子を新しく買い換えを行った。スタッキングができる椅子になったことで、コロナ禍による使用制限時の学生サロンの活用用途が広がり、新しい生活様式に対応しやすい環境となった。
 - ・重くて使いづらかった教室の机の一部の買い換えを行った。軽量の椅子に変えたことにより、教室内でのグループワーク等の配置換えなどが容易に実施できるようになった。
- ③学内環境の改善
 - ・全てのバーチカルブラインドの修理を行ったことにより、コロナ禍で室内換気のための窓の開

閉操作がスムーズにできるようになった。

- ・教員のユニフォームを白のKCからスクラブ（紺・バーガンディ）に変更し、事務職員の制服についてもデザインやリボンを変更したことにより、イメージが一新し学内の雰囲気明るくなった。

④学外学習の充実

コロナ禍で学外学習の多くが中止となったが、実習施設とオンラインでグループワークを行ったり、臨地実習では学生や指導者とオンラインで面談を行ったりすることで、安心して実習に取り組める環境を整えた。

(2) 継続事業

①ICTを活用した教育の推進

- ・タブレットを利用した遠隔授業を実施している。
- ・中央研修では、eラーニングを用いた研修を実施している。

②効果的な広報活動の展開

- ・令和2年度の入学生にタブレットを贈呈した。(ICT教育に対応)
- ・コロナ禍では、オンラインでのオープンキャンパスを実施し、前年度と変わらず定員以上の受験者数を確保できている。

③ECO活動、効果的運営、経費削減

- ・公用車を一台減らしリース料の削減を行った。
- ・ガソリンカードを導入し職員の立て替え払いの負担が軽減した。
- ・低コスト順にカラーコピー機を利用するよう周知し、会議資料は裏紙を使用するなど、経費削減に取り組んだ。

福岡和白リハビリテーション学院

～効率的な学修で国家資格取得を目指す～

(1) 教育用機器備品の充実

経年劣化した備品等（3次元動作解析装置、机30台、椅子25脚）の買換え及び車いす10台の修理を実施し、学習環境の改善及び実習環境の充実を図ることができた。

(2) 学生の満足度向上について

計画していたトイレルームの改装は、その他の工事と調整することとなり未実施となった。PC室には大型のプリンター1台を追加し、運用している。

(3) 業務効率化について

教職員室に複合機2台を買換えしたことで、学習資料の印刷等がスムーズに行えるようになった。

た。また、機器不具合時に正常な機器でのフォローが行いやすくなり業務の滞りを改善することができた。

(4) ICTを活用した教育の導入

学生全員が iPad を所持する環境を用意することができた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業実施の対応もスムーズに行えた。教職員の業務でも、クラウド上での共同作業等積極的に ICT を活用し、業務効率化を図っている。

(5) 退学防止委員会

①進級率 PT学科90% (272/303)

昼間コース 1年92%、2年83%、3年96%

夜間コース 1年100%、2年82%、3年89%、4年88%

OT学科95% (124/130)

1年91%、2年81%、3年88%

②退学率 PT学科5% (15/303)

昼間コース 1年3名、2年7名、3年2名

夜間コース 1年0名、2年1名、3年1名、4年1名

OTコース5% (6/130)

1年4名、2年1名、3年1名

理学療法学科の進級率が90%と低い結果となった。新型コロナウイルス感染症による前期休校や遠隔授業の影響も考えられるが、学生サポートを強化して次年度は進級率の向上を図っていく。

(6) 入学希望者のニーズに合った効果的な広報活動を実施

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画していた広報活動は行えなかったが、募集状況は好調で定員を満たすことができた。

(7) 経費削減

計画していた学生サロンの人感センサーによる点灯消灯管理については、その他の工事と調整することとなり未実施となった。

福岡水巻看護助産学校

地域に貢献できる学校を目指して
～カリキュラム改正に向けて学習環境デザインと業務のスリム化～

(1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

【看護学科】

令和2年度は、1年生の基礎看護学方法論Iで対象の状況に応じた看護実践ができるよう、シミュレーション学習を取り入れた。2・3年生は臨地実習を代替するシミュレーション教育を実施した。急性期の学習ではシナリオを活用し、患者の状況に応じた看護援助の実際を学ぶことができた。

【助産学科】

学生間で学びあえる学習方法を多く取り入れた（GW、調べ学習及び発表など）。例年、学内演習と臨地実習をシームレスに移行できるよう、技術練習など段階を追って進めているが、学内の演習モデルでは、リアリティーのある学習が難しく、内診技術に関しては企業からのデモ機を貸借し学習に役立てた。今年度は、実習までの演習期間としては短期間で不十分であったが、学生の満足度は高かった。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、オンライン学習となり、Teams、LINE、zoomなどのアプリを利用し講義を行った。

（2）学生満足度向上に向けた取り組み

【看護学科】

学習環境としてWi-Fi環境を整えて欲しいという希望の聲が上がっていた。年度末にWi-Fi環境を整えた。

【助産学科】

学校カウンセラーと情報交換しながら学生支援を行ったが、専門的な知識や対応により支援できないかと考え、2名の教員は公認心理師の現任研修を受け、学びを活かしながら学生の支援に役立てた。

（3）ICT環境の運用

【看護学科】

年度末にWi-Fi環境を整えたので、次年度より活用していく。

【助産学科】

入学後、オンライン講義確立に向け、開始当初は不具合もあったが、Teams、Zoomの利用が安定した後は講義も安定し、妊娠期実習（マザークラス）や地域母子保健実習（母乳育児支援）も遠隔で行うこともできた。

（4）退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率向上への実現）

【看護学科】

日々学生の様子を窺いながら必要時は個人および保護者を含めた面談を実施している。

【助産学科】

保護者、学校カウンセラーと情報交換しながら支援しているが、入学時、希望時ではなく、計画的に面接を行っている。

(5) 国家試験合格率100%に向けた取り組み

【看護学科】

1年生は解剖学の学習を通して学習する力を身に付けることができるような取り組みを行った。学生によっては学習の取り組みに差が見られる。2年生は基礎学力が身に付き主体的な学習スタイルを確立できるとした。3年生は合格ラインに達成できるようアドバイザー制をとり関わった。次第に学習への取り組み状況は良くなり、合格率100%となった。

【助産学科】

主体的学習者として、学生の意向を取り入れた国家試験対策を行ったことで学生の満足度が上がり、24名全員合格するに至った。次年度も学生個々の学習スタイルを尊重しつつ、国家試験対策を図っていく。

(6) 定員充足への取り組み

【看護学科】

新型コロナウイルス感染症の影響により高校訪問はできなかったが、オンライン説明会を複数回実施し、結果的には昨年より多い受験者数となった。

【助産学科】

受験倍率は過去3年、3.7~4倍と学生確保はできている。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、オンラインでの学校説明、座談会を3回行った。前年度に比べ参加者は少なかったが、受験倍率は4.04と、例年並みの確保はできた。助産学科も10年を超え、認知されてきていることが考えられる。次年度も、リモートを利用しながら実施していく。

(7) 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

【看護学科】

新型コロナウイルス感染症の影響により地域清掃は実施できなかった。

【助産学科】

例年地域で行われる母子支援の研修や取り組みに有志で参加していたが、今年度は実施できていない。コロナ禍ゆえに母子支援は重要であるため、実習以外でも地域での取組みの情報提供なども行っていく。

8. 業務効率化の促進

【看護学科】

共有フォルダの活用はできており、回覧物のペーパーレス化も図れている。働き方改革も浸透しており、有休も取得できている。

【助産学科】

新規コピー機の導入により、資料の準備などスムーズになり業務の効率化につながった。共有フォルダの利用については、教員間の業務の連続性があり有効に利用することができた。

9. 就職支援、キャリア支援

【看護学科】

各学年、早目に面談を実施し、教員の支援を受けながら進路を決定している。また、関連施設への就職率は64%と高い割合で就職している。

【助産学科】

入学時より希望調査や施設調べなど支援していたが、学生の満足度は他項目と比較すると低かった。第1希望が叶わなかった学生もあり、早期の対応が必要と考える。

10. 新カリキュラムに向けての取り組み

新カリキュラム検討委員会で定期的に話し合いを設け、教員会議で内容を共有している。また、カリキュラム編成セミナーに申し込み、教員全員が視聴して学ぶことができるようにしている。

武雄看護リハビリテーション学校

人間性が豊かな学生を育て、信頼される学校創りに邁進する
～10周年に向けてより一層の活性化をしていく～

(1) 医療人としての人間性・人間力の育成

学事（始業式・終業式・学校長講話）での司会や進行及び各学科行事やレクリエーション活動の計画や運営を学生に任せることで自主性が培われ、その結果コミュニケーション力の育成や、リーダーシップの大切さを学び身に付ける機会になった。

来校者からは、挨拶や礼儀正しさを称賛されることが多く、本校の伝統にもなっている。

(2) 進路保証100%達成

看護学科・理学療法学科とも8年連続就職率100%を達成している。

ジョブカフェを利用しながらも履歴書の作成については、不備が無いよう各学科で責任を持ってサポートを行うことができた。また、面接指導についても担任や学校長で学生全員に実施することにより、自信を持たせて就職試験に臨むことができ好結果に繋がった。

コロナ禍ではあったが、理学療法学科は10月に本校独自の就職説明会を実施し、就職決定に繋がった。

(3) 国家試験全員合格

令和2年度は、看護学科40名中40名の全員合格、理学療法学科40名中39名の合格者の好結果を出した。看護学科の既卒者3名も無事に合格した。全国平均よりはるかに高い合格率であった。

1年次より学習習慣の確立をさせ、3年間を見据えて国家試験に向けての対策を行っている。

3年次にはグループ学習や特別授業などを取り入れ、特に成績不振者に対しては、長期休業中だけでなく放課後も随時指導を行い、学習の向上に繋げることができた。また、心身の健康を保つために、担任面談や学校長講話、両学科の協力関係のもと激励会の実施も取り入れ、国家試験に向けての心構えや準備を整えるサポートをすることができた。

(4) 退学者・休学者をなくす

令和2年度の退学者は看護学科2名（2年生）理学療法学科1名（1年生）の計3名だった。その他の4クラスは卒業と進級を全員が100%を達成した。卒業延期者と休学者は0名である。皆勤賞の受賞者も、開校以来始めての大台の102名が受賞した。

常に学生目線の大切さを教職員に周知徹底し、学生面接の充実とスクールカウンセラーの活用が定着率のアップに繋がっている。また、教育とは「今日行く」などスピード感を持って学生対応をしてきている。

(5) 魅力ある指導実践（ICT活用等）と図書室の活用

コロナ禍の中で、対面授業ができない時期にはオンライン授業を取り入れて授業の展開をすることができた。特別補助金として佐賀県法務私学課から私立学校設備整備補助金621,720円のうち1/6の補助103,000円の補助金を受け、ポータブルプロジェクター（情報機器）の整備をすることができた。教職員が学生指導のために使用するための技術向上が課題ではあるが、有効利用することができている。

図書室の管理は、図書委員会を活動させ紛失書籍の減少に繋げている。書籍購入費は、書籍の充実を図るために、昨年度156万円から今年度174万円に増額し、学科の希望に添えている。

(6) 地域、行政と連携したボランティア活動

新型コロナウイルス感染防止から、多くのボランティア活動が中止になり実施ができないが、校内美化の取り組みで除草作業や校内清掃活動を実施した。

ボランティア活動については、学生からの希望者も多いので、新型コロナウイルス感染症の終息後から随時再開していきたいと思っている。

(7) 高校との信頼関係での定数（入学者）確保

コロナ禍での高校訪問が思うようにできず、新たな方法（電話・メール・郵送）を模索しながらの広報活動となった。感染防止対策を万全にして、学校説明会を4回、オープンキャンパスを3回、春のオープンキャンパスを1回実施した。理学療法学科の参加者が倍増し、看護学科は前年とほぼ同数であった。高校の部活動の支援は、学校長が計画し高校とのパイプをしっかりとって入学者に繋げていった。広報担当者は、高校ガイダンスや地区学校説明会に参加して募集活動を行って貢献してくれた。

令和3年度の入学者は前期の入学試験で終了し、看護学科43名・理学療法学科50名の入学者を確保することができた。

(8) 教育費等の削減と業務の効率化

勤怠管理システムの導入で職員の勤務状況の把握が容易になってきた。早番や遅番の取り扱いもスムーズにでき、教職員の勤務軽減にも繋がっている。今後も教職員の勤務軽減や長時間勤務の解消ができるよう効率化を推進していく。

(9) 教職員の資質向上

事業計画や教育方針、教職員に周知するために管理会議や運営会議の時に補足説明を行い、学校の活性化を推し進め、「教師によって学生は変わる」ことを学校長が教員に話をしている。学習指導力と生活指導力の向上をしていくために、自己研鑽と研修会（オンライン研修）への参加を勧め、費用についても県からの補助事業も利用している。新たに今年度からは、無料で佐賀県教育センター講座の受講も可能になった。

(10) 学生の住居（アパート）の確保と交通手段

佐賀県の交通が不便な地域や長崎県からの入学者が多く、アパートの確保が懸案であったが、地元の業者の協力もあり、第二の女子寮（なないろ）を確保することができ無事解消することができた。

令和元年度 レモンガラス（女子寮）16 部屋 外部寮 8 部屋 24 部屋 48 人入寮

令和2年度 レモンガラス 16 部屋 第2寮（なないろ）12 部屋 28 部屋 56 人入寮

校内の駐車場の整備も76台と工夫して確保してきたが、まだ不足しており土地取得などの課題は残っている。

(11) 開校10周年に向けての準備作業

新型コロナウイルス感染症の終息が見えずに、準備作業は進んでいない。新型コロナウイルス感染症の状況を見て開催の実施を検討する。

(12) 校内の整備と経費削減

学校の建物は管理が行き届き、10年経過しているがほとんど劣化はなく学校生活に支障は出ていない。しかし、周辺部の地盤沈下の影響で配管及び階段の破損、玄関のタイルの剥がれなど被害については、その都度対処している。

電気料は最大使用量を抑え、LED化で電気料金実績も削減できているが管理体制をしっかりすればあと少しは減らすことができると思う。先生方と学生の省エネに対する意思付けがこれからの課題である。

令和元年度電気使用量 234,426Kwh 電気料 5,370,561円

令和2年度電気使用量 232,158Kwh 電気料 4,657,988円

前年度より712,573円削減になっている。

電力量はそう変動はない。 年間の使用料の単価が安くなっていることが要因である。

消耗品についても、教職員と学生の削減に対する意識レベルを高めることで削減していくことができると考えている。

令和2年度は8,269,642円 令和元年度 8,022,665円であり、これからは学校予算の使途について、事務職員の削減に対する指導も重要になってくると思っている。